

郷土古典文学作品の教材化および指導方法の研究

——菅茶山作品と茶山ポエム——

高尾（七河）香織

1 はじめに

今回の報告は、広島県教育委員会による「平成二十一年度 エキスパート研修」において研究し、まとめたものを一部改め、加筆したものである。

平成二十一年三月に告示された学習指導要領（以下、新学習指導要領とする。）では、国語科において伝統的な言語文化に関する教育の充実が重点課題の一つとされ、古典教育の重要性が改めて指摘されている。これは、新「教育基本法」第二条第五項の「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し」という精神を現したものと見える。

科目「古典A」では、その目標に「古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことよって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる」とあり、内容（1）のEでは「伝統的な言語文化についての課題を設定し、

様々な資料を読んで探求して、我が国の伝統と文化について理解を深めること。」と規定している。

新学習指導要領解説国語編においても、「急速に国際化の進む社会で生きていくに当たって、諸外国の伝統と文化を理解しそれを尊重するために、我が国の伝統と文化について自覚し、我が国と郷土を愛し、それを尊重する態度を育成することが大切となる。」と述べられ、伝統的な言語文化の継承と創造の担い手となる資質の育成を重視していることを示している。

「古典A」の教材として、郷土の文学作品を扱うならば、身近な資料を用いて学習指導を展開することが可能であり、掲げられている目標を十分に達成し得ると考えた。本研究は、郷土にゆかりのある古典作品を教材化し、郷土資料を映像化した視聴覚教材を用いて展開する学習指導の有効性を検証するものである。

2 研究の概要

2. 1 研究の目的

郷土に関連づけられる古典文学作品を教材化し、その指導を通して、生徒が作品を理解し作品に親しみながら、自らの存在意義や生き方を見つめなおすことができる可能性を探る。

2. 2 研究の方法

以下の手順により、研究をすすめる。

- ① 郷土資料および郷土文学作品の調査
- ② 郷土資料および郷土文学作品に関する文献目録の作成
- ③ 郷土資料および郷土文学作品の教材化
- ④ 郷土資料および郷土文学作品の教材を用いた検証授業実施
- ⑤ 検証授業の分析・考察

3 郷土の文学作品の教材化および検証授業案

3. 1 教材化の視点

教材化にあたっては、地域の伝統・文化継承の活動が学校教育の現場とどのように結びつくかという視点から見えていった。

福山の地には膨大な歴史的資料が残されており、現在でも多くの郷土史家が活躍されている。福山市の広報誌にも郷土史に関する連載があり、市民が参加できる歴史散歩や文学散歩などの企画が随時

行われている。そのような地域の活動の中で、菅茶山に関連するものが特に目をひいた。

菅茶山は儒学者、教育者、漢詩人として優れた業績を残した。茶山は神辺の地に私塾、黄葉夕陽村舎を作り、郷土の子弟教育に情熱を注いだ。黄葉夕陽村舎は後に郷学として認められ、廉塾と称され、現在もそのたたずまいは国の史跡となり、当時の面影を残している。また、茶山は藩の儒官として藩校弘道館でも講義をする。そして、藩主の命で『福山志料』の編修にも中心人物として携わった。

菅茶山の著作は『筆のすざび』ほか多数あるが、最も著名にして当時のベストセラーと言えるほど多くの人々に読まれ、現代にまで読み継がれているものは、『黄葉夕陽村舎詩』である。前編・後編・遺稿の三部からなり、採録されている詩はおよそ二四六〇首である。茶山の詩の多くには、郷土の暮らしや身近な自然の景物に対する慈愛に溢れた思いが比較的易しい漢語で表現されている。その表現の奥には茶山の深い見識と何よりもおらかで温厚な人柄が窺えるものであり、多くの文人が茶山を敬愛したのも当然のことであった。茶山の存在がこの福山地方の文化を高め、その名を全国に広めた。茶山の死後百八十年の時が過ぎても、なお茶山を誇り、茶山を偲び、茶山の偉業を次世代に受け継ごうとする流れが絶えない。以下に、その例を紹介する。

3. 1. 1 『茶山ボエム』

昭和六十一年（一九八六）に菅茶山遺芳顕彰会（現…菅茶山顕彰会）が結成された。平成五年（一九九三）から菅茶山の遺徳を顕彰

する活動の一環として、茶山詩を地域の子どもたちに伝えるとともに、詩によって喚起されたイメージを絵画化させる『茶山ポエム絵画展』という企画が毎年行われている。平成二十一年（二〇〇九）で十七回目の開催となり、地域の幼・小・中・高の十九校園から出品され、応募作品数は三三九三点であった。

『月刊国語教育研究』（二〇〇二年七月号）に、当時安田女子大学の大道雄教授が地域の話題として紹介し、この活動を「地域ぐるみの広義の古典鑑賞教育の実践」という見方をされている。

『茶山ポエム』は茶山詩を口語詩の形式でやさしく訳しているものがあるが、その作品世界を十分に反映した「詩（ポエム）」である。訳者は地域の人々であるが、いずれも茶山と茶山詩の研究を独自に進めて来られた方である。

3. 1. 2 「茶山ウィーク」

毎年十月末から十一月初めにかけて「茶山ウィーク」と称される企画があり、先のポエム絵画展や公募俳句展、菅茶山研究者や郷土史研究者による講演会などが催されている。

公募俳句にはポエム絵画展同様、地域の小・中学校が学校ぐるみで参加している。題材は菅茶山に限定するものではないが、子どもたちの俳句には廉塾や黄葉山、丁谷の梅林、夕日に映える神辺の町を詠んでいるものが多い。

3. 1. 3 『茶山詩話』

『茶山詩五百首』の著者である北川勇氏の講演録としてまとめられ

たものであり、第一集から第七集までである。菅茶山遺芳顕彰会が主催した学習会で行われた講演がもとになっているが、分かりやすい講話の内容は茶山詩研究の入門として最適である。

第五集「茶山と山陽」に北川氏の次の言葉がある。

「詩文の真意を探るは四通りの手続が必要だと思えます。一、目で読むこと（黙読）。二、口で読むこと（朗読）これは耳で読むことでもあります。三、手で読むこと。手で読むというのは、その通りを書き写すこと。四、足で読んで仕上げるのです。足で読むというのは、現地を慕って自分の足で訪ねてみるということ。」

「足で読む」については、第六集「茶山と中条」でも触れており、詩の生まれた場所に足を踏み込んでより理解を深めることだと言われている。想像力を働かせて時間と空間の隔たりを無くし、詩が生まれたその時に思いを馳せることの重要性が、「足で読む」と象徴的に表現されているのである。この北川氏の言葉は、古典文学を鑑賞する上で大いに納得させられるものであり、郷土文学作品を学校現場で扱う際の重要な指針となり得る。

以上のことから、郷土作品として菅茶山の作品を教材化することが妥当であると判断した。

3. 2 総合単元「郷土の文学 菅茶山の詩の世界」

3. 2. 1 単元設定の理由

菅茶山が著わした『黄葉夕陽村舎詩』の多くの漢詩には、郷土の暮らしや身近な自然の景物に対する慈愛に溢れた思いが比較的易しい漢語で表現されている。また、『筆のすさび』には茶山が見聞きしておもしろいと思ったことが書かれている随筆集である。その内容には科学的な根拠に基づくものも見られ、改めて茶山の見識の広さ、深さに気づかされ、非常に興味深く読める。

そのような菅茶山の作品を読むことは、郷土で育まれた伝統や文化に対する理解を深めるのに非常に有効であると考えられる。茶山の郷土愛は現代に生きる我々にも共感できるものであり、作品を通して郷土を愛し、郷土に根ざして生きていくことの意味を見いだすことができる。さらに、茶山の偉業を受け継ぎ次世代に受け継ぐと活躍している地域の人々の活動に触れることで、自らも地域の文化を継承し創造する人材となり得るという自覚を持たせることもできるだろう。

また、菅茶山顕彰会の『茶山ポエム絵画展』等の活動により、文学の享受の多様性にも気づかせ、自らが読み取った詩の世界を自らの言葉で表現する可能性を探ることもできる。茶山詩に向き合い、一つ一つの言葉を自らのものとして得ようとするとき、まさしくそれは古典と「対話」する行為となり、古典の世界を理解し、古典を深く読み味わう態度を育成することにつながるはずである。

以上のことから、菅茶山の著作及び関連資料などを用いて、総合単元の学習が展開できると考え、その試案を設定することにした。

3. 2. 2 単元の目標

① 菅茶山が江戸時代後期において、当代随一の漢詩人と評されたその詩風に触れて、茶山と茶山の詩に対する理解を深める。(新学習指導要領 古典A 2 内容ウ に対応)

② 菅茶山の詩に表現されている郷土や身近な自然の景物を愛する思いを読み取ることで、郷土に根付いた文化に関心を持ち、郷土を愛し、郷土で生きることの意味を考える。(新学習指導要領 古典A 2 内容ア に対応)

③ 現代におけるさまざまな茶山詩の受容のあり方に気づき、自らが受容した詩の世界観を自らの言葉で表現する可能性を探る。(新学習指導要領 古典A 2 内容イ に対応)

④ 地域社会が菅茶山を愛し、茶山の偉業を顕彰する試みを数多くなされていることを知り、自らも地域の文化を継承し創造する人材となり得るという自覚を持たせる。(新学習指導要領 古典A 2 内容エ に対応)

3. 2. 3 主要教材

- ・菅茶山 『黄葉夕陽村舎詩』
- ・菅茶山 『筆のすさび』
- ・菅茶山顕彰会 現代語訳『筆のすさび』
- ・菅茶山顕彰会 現代語訳『備後国福山領風俗問状答』
- ・中山善照ほか 『茶山ポエム』
- ・北川勇(講演録) 『茶山詩話』第一集〜第七集

3. 2. 4 学習指導計画

<p>第一次「菅茶山とその詩の世界」『茶山ボエム』から見えてくるもの』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶山詩を読み、『茶山ボエム』や『茶山詩話』の内容を踏まえて、茶山の郷土や自然の景物に対する思いを読み味わう。(関心・意欲・態度) ・茶山詩を読んで、ポエム風口語訳や四コマ漫画ストーリーを作る。(読むこと・書くこと) 	<p>第二次「茶山の愛した風景」田園・子どものいる風景」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『茶山詩話』第三集「田園閑適」に取り上げられた茶山詩を中心に、農村で暮らす人々や、廉塾に通う幼い弟子たちに寄せる茶山の思いを読み取る。(読むこと) 	<p>第三次「茶山の好きなもの」梅・蝶・螢」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『茶山詩話』第四集「梅・蝶・螢」に取り上げられた茶山詩を中心に、これらの素材を多様な角度から表現していることに気づかせると同時に、これらのものをこよなく愛する茶山の思いを読み取る。(読むこと) 	<p>第四次「茶山の大切な人」弟子・友人・妻」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『茶山詩話』第二集「交友」、第五集「茶山と山陽」、第六集「茶山と中条」、第七集「茶山晩照」に取り上げられた詩を中心に、茶山と深い親交のあった人々に寄せる茶山の思いを読み取る。(読むこと) 	<p>第五次「茶山の好奇心」『筆のすさび』から見えてくるもの』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『筆のすさび』の本文及び現代語訳を用いて、交友関係の広がった茶山が各方面から聞き及んだ話の多様さから、茶山の深く広い見識や旺盛な好奇心を感じ取る。(関心・意欲・態度)
---	---	--	--	--

<p>第六次「茶山の生きた時代」江戸時代後期の福山」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代語訳「福山領風俗問状答」などを用いながら、茶山の生きた時代の郷土の様子を調べる。(関心・意欲・態度) 	<p>第七次「現代に生きる茶山」茶山を愛する地域の人の話を聞く」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅茶山顕彰会など、地域で茶山の偉業を伝えようと活動している人々の話を聞き、地域の文化活動への関心を高める。(聞くこと) 	<p>第八次「私の『茶山ボエム』」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが表現者となり得ることを自覚して、独自の『茶山ボエム』や茶山の歌物語のほか、郷土を題材にした文芸作品の創作を試みる。(書くこと)
--	---	---

3. 3 検証授業(面接指導)案

勤務校の広島県立東高等学校は通信制課程であるため、生徒たちは年齢、学力、生活体験などあらゆる面において多様である。生徒は自分の生活事情に応じて随時出席すれば良い。したがって、生徒集団は毎時間変わり、継続的な指導は不可能なので、単元を一時(五〇分)で終わらせるという面接指導の展開になる。今回は、「古典A」の先行学習として、学習計画の第一のみを検証した。

学習活動	評価基準
<p>《導入》</p> <p>菅茶山について、概要を知る。</p>	
<p>《展開》</p> <p>・茶山詩を分かりやすい口語訳</p>	<p>・現代語訳や『茶山ボエム』『茶</p>

<p>に直した『茶山ポエム』や茶山詩についての講演録『茶山詩話』を用いて、茶山が表現した詩の世界を読み取る。</p>	<p>山詩話』を手がかりにして、茶山詩に表現されている世界を理解しようとしている。</p>
<p>・『茶山ポエム』のような口語訳詩、または茶山詩の四コマ漫ストーリーをつくる。</p> <p>《まとめ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できた作品を発表する。 ・本時の感想を書く。 	<p>・原詩や現代語訳の表現に即したもものになっている。</p> <p>・読み取った詩の世界を自分の言葉で表現しようとしている。</p>

4 検証授業（面接指導）の分析・考察

4. 1 パワーポイント教材の活用

単元『菅茶山の詩の世界』を設定する以上、多くの茶山詩と『茶山ポエム』を提示したいと思い、パワーポイントを用いた講義形式の面接指導を行った。パワーポイントのスライドは全三十二枚、茶山詩と『茶山ポエム』のほか、詩に詠まれた風景の写真、ポエム絵画展の作品などを取り込んで構成した。

4. 2 『茶山ポエム』への反応


生徒の感想の中に、『茶山ポエム』への興味・関心を示したものが予想以上に多かった。「漢詩のままでは難しくて分からなかったものを、ポエムに変えて訳すとわかりやすく興味がわいてきた」「ポエ

《使用したスライド》

第七首(五)

連夜 収め来たうて 練葉に満つ
柳陰 懸けて照らす 納涼の牀
童は言う 螢火も亦た真火と
扇を揺るがせば燃えんとし
手を加うれば陽かしと
(茶山ポエム)

毎晩取つてきたからね
柳の枝にかけてみよう 夕涼みはほめてほしい
あの子が言ったよ、「螢の火は本当の火じゃ」
「周囲であらいたら燃えるみたい」明るくなるぞ」
「手を近付けたらちっかいた」
ほんまじゃ ほんまじゃ (七河 香織)



「子どもも来たぞー」

大好きな梅の花を盆栽にし大事に大事に育てた。

まだ雪が残っているのに今初めて花が開いた。

おとく、練まで梅のところがやて来たぞ。

（もう春になるんだなあ）

外気も晴れたから、日の光も当たるといふ。

天気も晴れたから、日の光も当たるといふ。

ムのような普段使わう言葉になおすとすごく身近に感じた」という『茶山ポエム』への興味や親しみを表すもの、さらには、「菅茶山の詩がすごく想像しやすいので興味を持った」「茶山の詩には動物や虫などの生き物が多く出てくる」という茶山詩の鑑賞と言えらるものが見られた。

4. 3 『茶山ポエム』創作への反応

検証授業では茶山詩の鑑賞だけではなく、『茶山ポエム』の創作を通して自らも表現者となり得る文学体験をさせることが一つの目的であった。面接指導時間内に作品を完成できなかったため、報告課

題という形で提出させた。

「自分の言葉で想像力をふくらませて文章を考えるのは興味深かったが、作者の気持ちを想像すること、その時の情景を想像することが難しかった」「自分なりにアレンジするのは難しい」という生徒たちの感想・意見があったが、そういう生徒ほど苦心して作った『茶山ボエム』を提示してくれた。以下に茶山詩とともに、いくつかの生徒作品を挙げる。

『蝶』七首の一

盆種一株梅 雪中花始開

候晴移近日 已有蝶尋来

【生徒作品A】

大切な大切な一つの梅の花を盆栽にして

育てていた

まだ寒く雪が残っているのに

初めて花が目覚めた

外に出して日の光を浴びさせていたら

蝶が元氣そうにやって来た

春よこんにちは

この作品を作った生徒は、最後の「春よこんにちは」の句を付して、「春が来たということをわかりやすく表した」ことを工夫した点として挙げている。また、この生徒は「同じ話でも、四コマ風にすることでも印象が変わる」という意見も述べており、創作体験

を通して、文学受容の多様性にも気付いたと考えられる。

『夏日雑詩（四）』

村童日日挾書来 講席偏愁暑若熈

歸路逢牛臥涼処 直將牧豎置騎回

【生徒作品B】

今日は暑くて塾で勉強中なのに集中できない

終わったとたんに解放感に満ち溢れて

外に飛び出した

帰る途中で牛飼いの友だちに会って

ガッツポーズ!!

牛さん家までお願いします

この作品は二人の生徒が共同して作ったものである。生徒たちは、塾の子どもが偶然牛飼いの友だちに出逢った時の喜ぶ様子を表現するのに、いかにも現代風の「ガッツポーズ!!」という句を入れている。『夏日雑詩（四）』は茶山の視点から見た村童たちの姿を描いたものであるが、生徒たちは村童の心情を想像し、自らの体験に引きつけて考えた結果、新たな表現を生み出している。

『所見』

登山待月生 夕陽紅未衰

上上身漸高 月在帰禽背

【生徒作品C】

山に登っている 月を迎え入れようと

張り切って早く出発したので 夕日が

まだまだまぶしく私を励ましてくれていて

一生懸命登った 夕日に照らされながら

また月の光に照らされるのを夢見ながら

ようやく高所にやってきた

登るのに必死で気付かなかった ねぐらに

帰る鳥の背の上にもうお月様は光っており

私を照らしてくれていたのを

鳥の背に見る月もすばらしい

この作品には、倒置表現が三カ所に用いられており、それが独特の幻想的な世界を表現している。生徒は「夕日や月のまぶしいぐらの光には心を熱くさせる力があるということを表したかった」と言っている。想像力豊かに原詩を捉えていることが十分に伝わってくる『ボエム』である。

『竹田夜帰』

漁伴携帰咲語喧 水禽驚起出林翻

竹田村畔溪橋路 螢火群飛夜不昏

【生徒作品D】

気の合うツレと魚釣りに出かけたら

帰りの道はドンチャンさわぎ

ヌートリアもおどろいて 巢からとびだした

竹田の村の谷川ぞい

橋が多くかかっている帰り道

螢の群れが飛んでいて 夜道も街灯なしで

歩けたよ

この作品を作った生徒は、中学生時に神辺で暮らしていた。同じ神辺町内でも、自分がよく知る高屋川周辺の情景を取り入れようと工夫し、「水禽」を「ヌートリア」に変えている。また、「夜不昏」も「街灯なしで」と現代風に変えている。

この生徒は授業後にも、「この詩がよく分かった」と話しに来てくれた。かつての自分や友人たちの姿が自然と思い浮かんでくる原詩の表現に共感を覚えたゆえに、理解も深まり、自分なりに工夫した表現を取り入れようという意欲も湧いてきたのだろう。

5 成果と課題

まず、本研究及び検証授業の成果を以下に挙げる。

第一に、茶山詩と『茶山ボエム』を教材としたことで、直接的に古典の面白さを伝えることが可能になり、「古典に親しむ」ことが達成できた。『茶山ボエム』は、地域在住の人々が茶山詩を分かりやすく伝えることを目的として作り上げた茶山詩の翻案とも言えるすばらしい作品群である。この『茶山ボエム』を通して、茶山詩の世界に入り込むことができた生徒たちは、分かりやすい表現に親しみを感じ、菅茶山への関心、郷土の文学への興味・関心を高めることに

なった。このことは郷土の伝統的言語文化の担い手としての資質を育成できたと見えよう。

第二に、視聴覚教材としてパワーポイントの有効性が確認できた。検証授業では通常よりも数多くの作品を取り上げたのだが、パワーポイントを活用することで、それぞれの作品の内容理解が進んだ。

原詩や書き下し文とともに、生徒たちになじみのある風景や、『茶山ポエム』や絵画展の作品が視覚的に印象付けられることにより、茶山詩の世界を想像し理解していくことが、比較的容易にできていた。

第三に、生徒が『茶山ポエム』の創作を通して、既有的知識や体験と関係付けながら、茶山詩の世界を再表現することができた。これは、郷土の『茶山ポエム』作家が作詩をする際の追体験とも呼べるもので、郷土文化を継承する資質が生徒作品からも窺える。生徒の感想にも見られたように、本来表現することは相当難しいものである。しかし、生徒は意欲を持ってこの課題に取り組んだ。郷土の文化に興味を持ち、あらためて郷土のことを知ろう、見直そうという思いが生まれてきたからであろう。

次に、課題を以下に述べる。

第一に、検証授業において一定の成果は見られたものの、菅茶山の理解や茶山詩の読み込みなどは不十分なものであり、『茶山ポエム』の創作ももう少しヒントを与えるなどの工夫が必要であった。

試案に止まっている総合単元学習としての検証をぜひ実現したい。今回の検証授業のように、一部を特化した展開も可能であろう。茶山詩をさらに読み込んだ上での、表現活動の充実を図り、学習を深化させることを目指したい。

第二に、研究の過程で「郷土資料および郷土文学作品に関する文献目録」を作成したが、調査・研究が行き届かない文献が残った。

今後も調査・研究を継続し、目録の内容をさらに充実したものにしていく必要がある。授業実践はもちろんのこと、読書指導に活用する方策も考えていきたい。

6 おわりに

生徒に古典を生きたものとして伝えるために、何を、どのように生徒に提示するのかを常に模索してきた延長上に本研究も位置づく。本研究は郷土古典作品の教材化というところから始め、「古典A」の先行学習という実践を試みたため、菅茶山の漢詩に親しみ、関心を高めることが重要なねらいであった。漢文を読む際に大きな言語抵抗を感じている生徒に、『茶山ポエム』という素晴らしい翻案作品を示すことは、先のねらいを達成するのに非常に有効であった。

さらに、『茶山ポエム』の創作では、自らの生活体験と重ねあわせながら、想像力を豊かにして取り組み、素晴らしい作品を生み出した。これらの体験を通して、生徒たちは自分たちなりに伝統や文化歴史の重みを感じることができたはずである。つまり、本研究において、新学習指導要領の国語科の目標に掲げられている「思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かに」すること、「言語文化に対する関心を深め」ることができたと見えよう。

最後に、今回の研究は、第60回全国高等学校通信制教育研究大会で、香川県立丸亀高等学校の佐藤八重子先生が発表された実践に大

きなヒントを得たものであることを紹介して、感謝の意を表わすこととする。

【主要参考・引用文献】

(書籍)

- ・『黄葉夕陽村舎詩』 菅茶山 文化九年 皇都書林汲古堂
- ・『福山市史』 福山市史編纂会 S 38 国書刊行会
- ・『備後叢書』 得能正通 備後郷土史会 S 45 歴史図書社
- ・『菅茶山と頼山陽』 富士川英郎 S 46 平凡社
- ・『日本隨筆大成』 第一期第1巻 筆のすさび 羈旅漫録』 日本隨筆大成編輯部 S 50 吉川弘文館
- ・『茶山詩五百首』—黄葉夕陽村舎詩抄解— 島谷真三 北川勇 S 50 児島書店
- ・『黄葉夕陽村舎詩』(全) 菅茶山 葦陽文化研究会 S 56 児島書店
- ・『福山藩の文人誌』 濱本鶴賓 S 63 葦陽文化研究会 児島書店
- ・『菅茶山』上・下 富士川英郎 H 2 福武書店
- ・『菅茶山』六如』江戸詩人撰集第4巻 黒川洋一 H 2 岩波書店
- ・『まんが物語 神辺の歴史』 中山善照 H 4 神辺を元気にする会 (代表 三宅真一郎)
- ・『茶山詩話』第一集〜第七集 茶山詩話編集委員会 H 4〜H 10 菅茶山遺芳顕彰会
- ・『備後ゆかりの歴史人物伝』 田口義之 H 7 福山リビング新聞社
- ・『新日本古典文学体系66 菅茶山 頼山陽 詩集』 水田紀久ほか

H 8 岩波書店

・『新日本古典文学体系99 仁斎日礼 たはれ草 不盡言 無可有郷』植谷元ほか H 12 岩波書店

・『現代文 筆のすさび』『筆のすさび』現代語訳委員会 H 15 菅茶山遺芳顕彰会

・『現代文 備後国福山領風俗問状答』『備後国福山領風俗問状答』現代語訳注委員会 H 17 菅茶山顕彰会

・『広島・福山と山陽道』頼棋一 H 18 吉川弘文館

・『天明の篝火 備後天明の一揆物語』藤井登美子 H 19 株式会社アスコン

・『知つとる? ふくやま』検定試験公式テキスト 松本卓臣 平井隆夫 H 19 中国新聞社

・『広島県の歴史散歩』広島県の歴史散歩編集委員会 H 21 山川出版社

・『菅茶山の世界 黄葉夕陽文庫から』菅茶山関係書籍発刊委員会 H 21 文芸社

(冊子)

・『江戸時代後期の福山藩の学問と文芸』鐘尾光世 H 6 (福山城博物館『近世後期の福山藩の学問と文芸』所収)

・『菅茶山顕彰のあゆみ 菅茶山生誕260年記念誌』 H 20 菅茶山顕彰会

・高等学校学習指導要領 H 21 文部科学省

・高等学校学習指導要領解説国語編 H 21 文部科学省

(広島県立東高等学校)